

特定非営利活動法人OVA

対人援助職・自殺対策に関わる自治体職員向け危機介入研修

「死にたい」にどう対応するか？

実施報告

開催概要

日時:2019年9月5日(木) 13:00~17:00(4時間)

場所:日本財団ビル大会議室

対象:援助機関に従事する対人援助職・自治体にて自殺対策に関わる職員

講師:清水幸恵(特定非営利活動法人OVA 認定シニアコンサルタント)

参加人数:44名

スケジュールと内容:

時間	内容
60分	【第1部】「臨床に生かすための自殺の統計と現状」 ・自殺に関する統計的データ ・年間自殺者数／自殺率／自殺致死率と性別／自殺未遂率の性差／ 年齢・職業・曜日・配偶者・遺書の有無／国際比較等
50分	【第2部】「自殺の危険因子と理解とリスクアセスメントの方法」 ・自殺の危険因子と偽陽性について ・自殺に追いつめられる心理
10分	休憩
60分	【第3部】事例検討 ・「死にたい」と訴える若者の理解とアセスメント
60分	【第4部】危機介入方法のポイント ・支援者の逆転移 ・チームによる支援／バーンアウトの予防 ・質疑応答

研修の効果

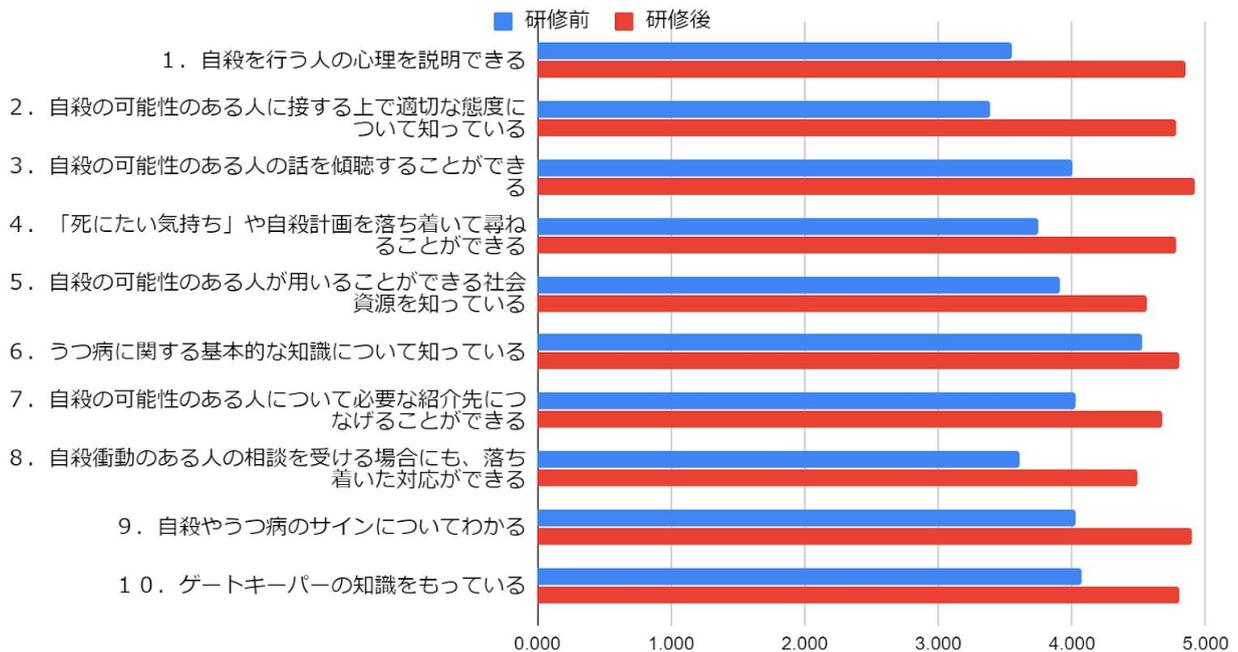
当日は事前と事後に自殺予防への取り組みに対する自信のアンケートを実施し、研修の効果測定を行った。アンケート指標にはゲートキーパーとしての自己効力感尺度※を用いた。

※自殺予防におけるゲートキーパー自己効力感尺度(Gatekeeper self-efficacy scale, GKSES)の開発Development of a suicide prevention gatekeeper self-efficacy scale (GKSES)(森田、太刀川ら、2015)

回収した回答から、以下のような結果が見られた。

- 自己効力感全体は、研修後22.5%上昇した。
(合計点の平均が38.8から47.6に上昇した)
 - ①自殺を行う人の心理を説明できる
 - ②自殺の可能性のある人に接する上で適切な態度について知っている
 - ④「死にたい気持ち」や自殺計画を落ち着いて尋ねることができる
- の3点についての自己効力感が特に大きく上昇した。

研修前と研修後のゲートキーパー自己効力感の変化



アンケート結果

研修に関する自由記述では、以下のような内容が見られた。

- 事例が具体的であり、わかりやすかった。
- 研修で学んだ内容を職場でも共有し、日々の業務に活かしていきたい。
- 支援者自身の逆転移などにも気を付けていきたい。

以上